

盛岡で最も古い煉瓦造りの洋館



明治19年(1886)頃完成したとされる。暖炉や地下室を備えたレンガ造りの美しい洋館。地階のある3階建てで、屋根裏部屋も加えると4階建て。石井省一郎は豊前国出身、内務省土木局長として、道路整備、石巻の野蒜港湾開発等に携わり、国指定重要文化財の「石井閘門」など、数々の土木行政に業績を残し、明治17年(1884)岩手県令として盛岡に着任している。着任直後、明治17年(1884)の河南大火で官舎が焼け、現在地に洋館および和館を建設した。南昌荘に隣接して、広大な庭園を持つ邸宅であった。火元の監獄署の建替えて焼いた煉瓦を、未決囚の手で積んだとも言われ、県令の権力の一旦が伺える。隣家に和館部の4分の3が現在も残る。

(もりけん本スーパードットコム ver.2より)

